

I C Tを効果的に活用した 教育の在り方について

(教育民生常任委員会・所管事務調査報告)

令和7年3月

高 松 市 議 会

高松市議会では、毎年度、各常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、教育民生常任委員会としては、令和6年度の調査テーマを「ＩＣＴを効果的に活用した教育の在り方について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、香川大学生との意見交換会、及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会での意見等を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

1 現状及びテーマ選定の理由について

国のGIGAスクール構想の実現に向け、本市においても、児童生徒に1人1台端末の整備を行い、令和3年度から本格運用を開始しておりますが、端末の活用が進む一方で、故障や破損の増加、教員のＩＣＴ活用能力の差による学校間やクラス間での活用頻度の差などが課題となっているところであります。

そこで、これらの課題を解決することで、ＩＣＴ教育をさらに推進し、児童生徒が未来を生き抜くために欠かせない資質・能力である情報活用能力を育成するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、令和6年6月27日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

2 委員会等の開催状況及び活動内容について

(1) 教育民生常任委員会

① 令和6年8月20日 当局からの現状等の説明・質疑応答

〔当局の説明概要〕

1人1台端末は、学習支援ツールによる個別最適な学びでの活用や協働的な学びの充実、不登校・入院等により登校できない児童生徒へのオンライン学習、令和5年度から開始した学校の実情に応じた端末持ち帰り運用による、学校の授業と家庭学習をシームレスにつないだ学びの充実に活用しているところである。

しかしながら、本市においては、児童生徒の1人1台端末の活用率の低さやネットワーク環境の問題、端末の故障・破損の増加とそれに伴う修繕費の確保が課題となっていることから、今後は、現行の取組をより強く推進することに加え、校務DXによる業務改善、教員の意識改革により、児童生徒の情報活用能力や、教員のICT活用指導力の向上に努める必要がある。

- ② 令和6年 9月19日 論点整理・質疑応答
- ③ 令和6年12月16日 先進地視察後の委員間討議
- ④ 令和7年 1月14日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

令和6年11月6日・7日 先進地視察

○兵庫県高砂市・京都府京都市

- ・1人1台端末による学習指導のさらなる充実について
- ・誰一人取り残さない教育の実現に向けた取組について
- ・教職員の資質向上と支援の強化について



6日 高砂市立高砂中学校



7日 京都市立八条中学校

(3) 意見交換会

① 香川大学生との意見交換会

令和6年11月18日

② 高松第一高等学校生徒との意見交換会

令和6年9月30日・10月28日

3 委員会としての提言内容について

〔3月3日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) 1人1台端末による学習指導のさらなる充実について

- ① 大人数での同時接続時等に、全ての児童生徒が遅れなく授業を受けることができるよう、回線の増強等、ネットワーク環境の整備に努めること。また、教員用端末の補充にも取り組むこと。
- ② 持ち帰り運用の推進等による自然故障、及び破損の増加への対応に努めること。
- ③ 視力低下等の身体的な影響も踏まえた適切な利用とその指導に努めること。
- ④ 書くことなどアナログ的な学習とのバランスを考慮し、学年や教科等

の実態に応じた有効なＩＣＴ活用の学習指導方法について検討すること。

(2) 誰一人取り残さない教育の実現に向けた取組について

- ① 教室に入りにくい児童生徒が、保健室や、その他の教室でＩＣＴを活用し授業に参加できる環境を整えるなど、児童生徒だけでなく保護者も安心できる環境整備を図ること。
- ② アプリを活用するなどして、児童生徒の心情や気持ちの変化が分かるような仕組みづくりを検討すること。

(3) 教職員の資質向上と支援の強化について

- ① 学校間、教員間のＩＣＴ活用の格差解消と資質向上のため、ＩＣＴ支援員の適切な配置のほか、他都市の事例を研究するなど、教職員への支援体制の強化に努めること。
- ② 職員室のＩＣＴ化を進めるなど、校務ＤＸによる業務改善の取組を進めること。